

4 現在の住まいにそのまま住み続ける層

さほどの不満がないから住み続ける

現在の住まいにそのまま住み続けるとする人たちは、総じて現在の住まいへの満足度が高い。特に不満がなければ、高いお金を払ってまで住み替える必要がないのはいうまでもない。

実際、現在の住まいへの不満点をみると、「特にない」とする人は全体では18%だが、現在の住まいにそのまま住み続けるとする層では24%に達している。

この現在の住まいにそのまま住み続けるという回答は現実の予測だが、単純な希望についても複数回答で聞いており、継続居住以外にも希望している人を除いて、継続居住のみを選択しているだけみると、その「特にない」という割合は30%に達する。これらの層では、各種の設備や建物自体の老朽化への不満などが極めて低い点も特徴となっている。比較的最近買った人たち、またキッチンと維持管理を行っていて、設備の更新や建物の大規模修繕なども順調に行われている物件に住んでいる人が多いものと推測される。

一方、リフォームや住み替えなど何らかのアクションも視野に入っている層では、「手狭なこと」「建物自体が老朽化してきたこと」に関する不満が3割弱あり、「特に不満はない」は14%にとどまっている。

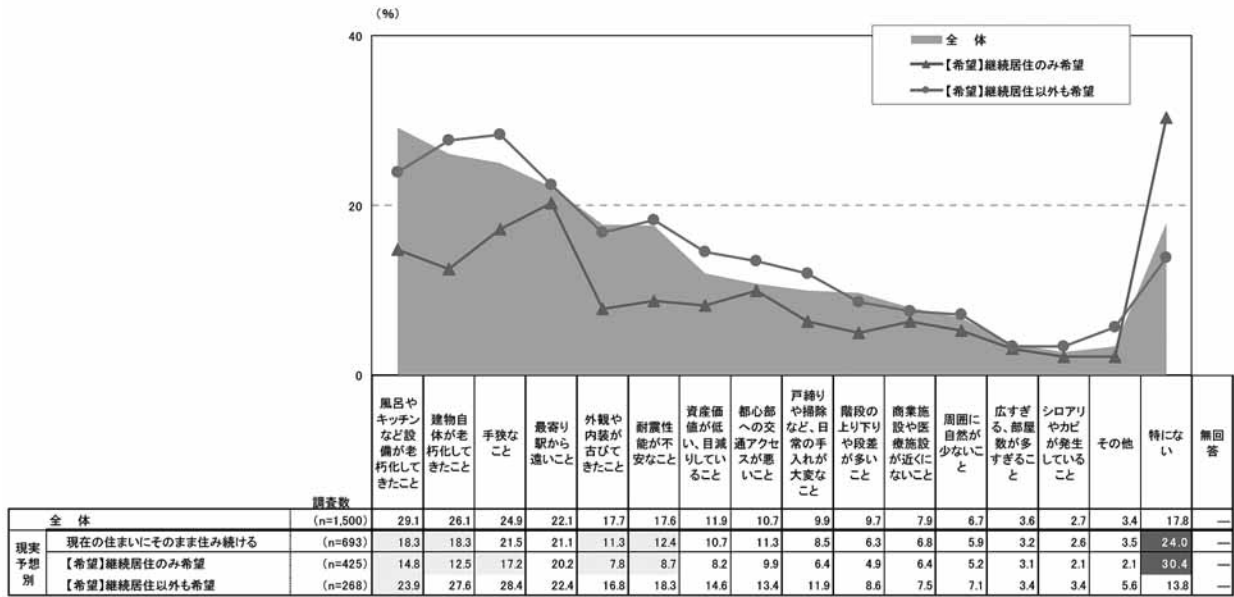
最大の阻害要因は資金繰りの問題

では、実際になぜそのまま住み続けるのか、その理由を聞いてみたところ、最も多かったのは、やはり「今の住まいに十分満足しているから」の47%という結果になった。以下、「購入や建て替えなど住み替える資金がないから」(32%)、「住宅ローンを組むことができない年齢だから」(14%)、「リタイア後のことも考えて、今の住まいの購入やリフォームをしたばかりだから」(11%)などの理由が続いている。

資産形成状況別にみると、金融資産5000万円以上の人では、「今の住まいに満足しているから」が60%で、全体平均の47%を大きく上回り、反対に資金面やローン面での阻害要因を挙げる人は10%以下にとどまる。反対に、金融資産マイナスの人では、「購入や建て替えなど住み替える資金がないから」が41%、「住宅ローンを組むことができない年齢だから」が23%で、お金に関する問題を阻害要因に挙げる割合が全体平均より10ポイント近く高くなっている。

現在の住まいに対する不満点

(今後の希望が「現在の住まいにそのまま住み続ける」の場合 / 複数回答)

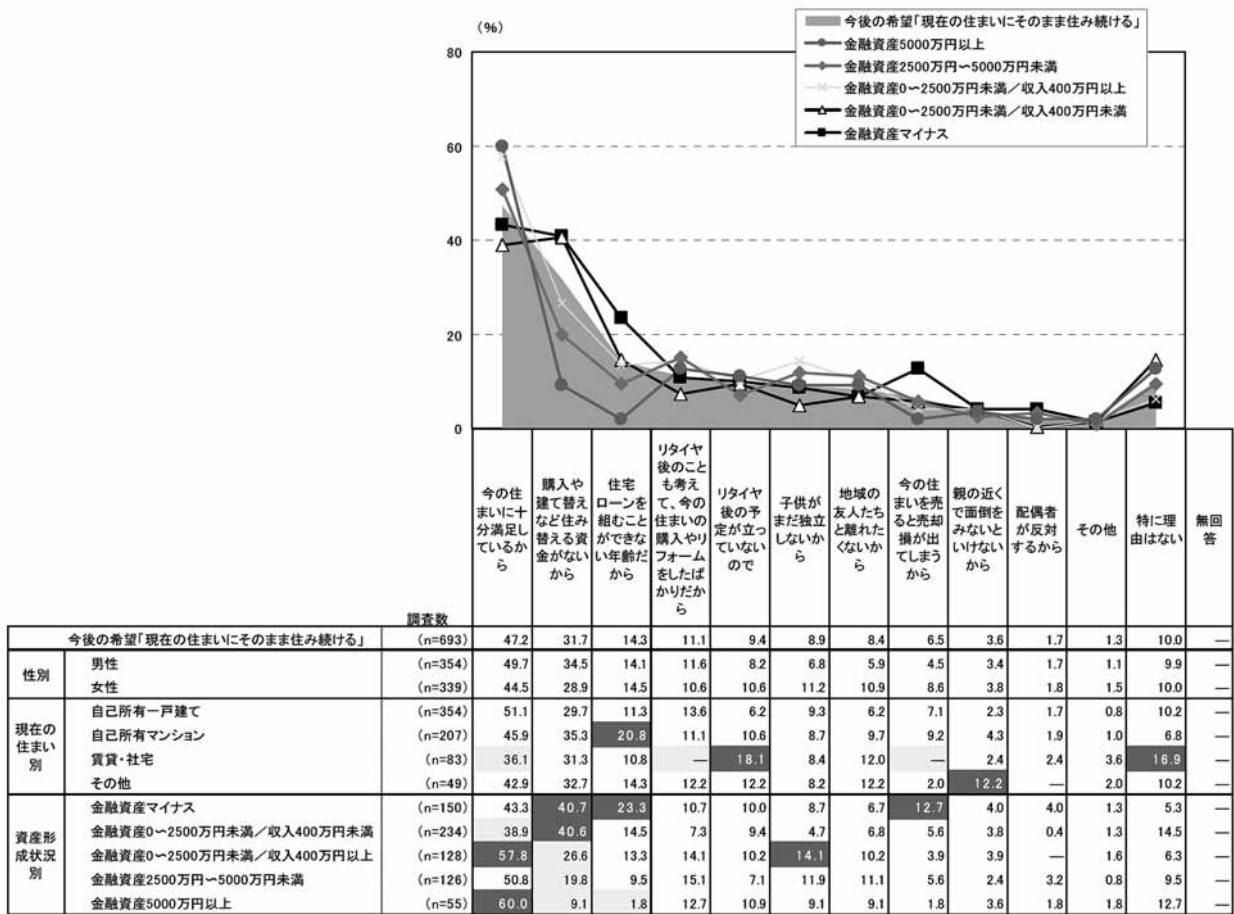


50.0 ... 全体値より5ポイント以上高い
50.0 ... 全体値より5ポイント以上低い

(単位: %)

現在の住まいに住み続ける理由

(今後の現実的な住まいが「現在の住まいにそのまま住み続ける」の人のみ / 複数回答)



50.0 ... 全体値より5ポイント以上高い
50.0 ... 全体値より5ポイント以上低い

(単位: %)